



補気建中湯 (ほきけんちゅうとう)

【処方コンセプト】元気がない方の浮腫などによる腹部の膨満感に。

このタイプの方は、元気がなくて、浮腫(あるいは腹水など)で、腹部の膨満感を訴え、食欲もないので、栄養が身に付かず、疲労倦怠を強く訴える方に用いる。

◆補気建中湯は実証の時期（五苓散、柴苓湯、木防已湯などを使う）を過ぎ、慢性に経過した虚証や元気が衰えた方の浮腫（あるいは腹水）に用いる。実証の浮腫は圧迫してもすぐに陥没が戻ることが多いが、虚証の浮腫は圧迫による陥没がなかなか戻らないことが多い。

◆腹水を起こす疾患には、難治性の疾患（肝臓の疾患）やその末期に多いが、補気建中湯でそのような疾患が簡単に治るというものではなく、つらい腹水をとることで、患者の生活の質（QOL）を高めることができる。

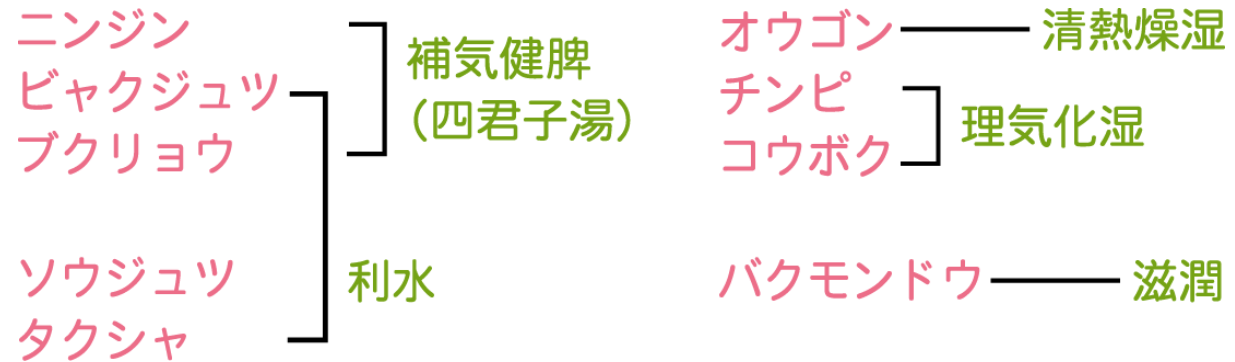


◆腹水を内服薬で改善することで、急激な体力低下を防止して、病気と闘う体力・気力をよみがえらせることが期待できる。

【処方構成】9味

四君子湯と平胃散とを合方して甘草(カンゾウ)を去り、黄芩(オウゴン)、沢瀉(タクシャ)、麦門冬(バクモンドウ)を加えたもので、中を補い小便を利する効果がある。

黄芩は内熱をとり、白朮(ビャクジュツ)、茯苓(ブクリョウ)などの利水作用を助け、厚朴で気をめぐらす。



	利水(化湿)					補気		理気		駆瘀血		温補		解表		その他		配合生薬数
	茯苓	沢瀉	猪苓	蒼朮	白朮	人参	大棗	甘草	厚朴	陳皮	当歸	地黄	桂皮	附子	生姜	黄芩	麦門冬	
補気建中湯	○	○		○	○	○			○	○						○	○	9
五苓散	○	○	○		○								○					5
八味地黄丸	○	○										○	○	○				8

						山薬,山茱萸		牡丹皮						
六君子湯	○				○	○	○	○					○	
	半夏													8

処方名	類方鑑別
補気建中湯	四君子湯と平胃散の合方加減。元気がなく衰弱した方の利水薬。
五苓散	小便の出が悪くむくむもの。ノドが渴いて水を飲むが、飲んだ以上に水分を吐く、腎臓の異常による浮腫に。
八味地黄丸	腰から下が冷えて重だるく疲れやすい。冷えのため、夜間たびたびトイレに行くが、思うようにならない。
六君子湯	食欲がなく疲れやすい。食べると眠くなり、朝起きが悪い。胃腸が衰えて、下痢・軟便になりやすい。